



亀山八幡宮

# 子供会が田植え体験

## 「イセヒカリ」植える

田植えを体験する子どもたち

下関市中之町の亀山八幡宮(竹中恒彦宮司)が昨年発足させた子供会「亀の子会」の子どもたちが5日、同市吉母の神田で田植えを体験した。

子どもたち45人が約3㍍の田に素足で入り、等間隔に目印の付いたロープに沿って苗を数本ずつ手植え。昨年に戦前以来の復活を遂げたお田植え祭神事では、竹中信彦禰<sup>ぬ</sup>宜が祝詞を奏上し、みこが舞を披露した。

今年も、伊勢神宮の神田で平成元年に見つけた「奇跡の米」と呼ばれるイセヒカリを植えた。長府満珠新町の小学6年、森田円香さん(11)は「足がぬるぬるしたけど上手にできた。いっぱい米ができれば」と喜んでいました。



# 地域のつながり復活へ 児童ら田植え神事

## 下関・亀山八幡宮「亀の子会」



田んぼでひざまずいて苗を植える参加者

亀山八幡宮(下関市中之町、竹中恒彦宮司)の呼びかけで集まった「亀の子会」の子どもたちが5日、吉母の田んぼで田植え神事に参加した。神職の竹中信彦さん(35)が亀の子会

を発足させ、亀山八幡宮の行事活動などを通して「地域のつながりの復活」を目指す。戦前行われていた亀山八幡宮の田植え神事だが、戦後は廃れていた。そこで竹中さん

が昨年、六十数年ぶりに再開させた。椋野町にあった神田を知人の協力で吉母に再現。5日は昨年の倍となる約100人が参加し、約300平方メートルの神田にイセヒカリの苗を植えた。

3年前、古里に戻ってきた竹中さん。「少年時代に親しんだ各地区の子ども会が、失われつつあるのがとても悲しかった」という。そこで毎年8月に亀山八幡宮で開いている林間学校60周年(昨年)に合わせ、独自の子ども会を結成した。会員には林間学校や稲刈り神事(9月)、たこ作り教室(1月)などさまざまな行事に参加してもらった。

田植え神事に親子5人で参加した下関市南部町、公務員、吉谷亮さん(38)は「親子の交

流にもなっていていいですね」と楽しそう。泥まみれになり、初めて苗を植えた長男勇樹君(7)は「気持ちよかった」とほほ笑んだ。竹中さんは「参加者から『子どもがご飯を食べ残さなくなった』などの声が寄せられています。大切なことを次世代に伝えていくには地域の行事が最適。多くの子どもたちに、会に加わってほしい」と期待している。入会希望者は、亀山八幡宮(083・231・1326)へ。

【尾垣和幸】